2017年4月22日

PGM 世界ジュニアゴルフ選手権
日本代表選抜大会

東日本決勝　美浦GC（茨城）
東日本決勝大会・初日結果のお知らせ

＜ＰＧＭ　世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会　東日本決勝・初日＞
◇2017年4月22日（土）　◇天候：曇り
◇茨城・美浦ＧＣ（15－17歳の部男子6550ヤードほかカテゴリー別）
◇出場163人

＜東日本決勝　初日概況＞
15―17歳の部男子は、中島啓太（東京・代々木高２年）が６バーディー、１ボギーの5アンダー67をマークして、２位に７打差をつけて首位に立った。同女子は岩井千怜（ちさと、埼玉・川島中３年）が1アンダー71の好スコアで首位に立ち、２打差で新藤励（群馬・共愛学園高２年）、３打差で吉田優利（千葉・麗澤高２年）が続いている。13－14歳の部男子は鈴木隆太（千葉・野田第一中3年）が1オーバー73でトップ、同女子は昨年世界ジュニア代表の花田華梨（かりん、栃木・宝木中2年）と吉田鈴（りん、千葉・市川第三中2年）が５オーバー77首位に並んでいる。昨年の日本代表でＩＭＧＡ世界ジュニアのシード権を取れなかった選手が、決勝大会にシード選手として出場している。
その他の部門では、11－12歳の部男女は末広大地（新潟・中条中１年）と川畑優菜（千葉・佐貫小６年）、９－10歳の部男女は山本大勢（福岡・西小倉小４年）と二宮佳音（かのん、群馬・笠懸北小５年）、７－８歳男女は片野貫一朗（千葉・松戸東部小２年）と荻原すいみ（埼玉・明戸小２年）がそれぞれ首位に立っている。
　大会は２日間36ホールの合計ストロークで争い、15―17歳、13―14歳の部男女は各２人、11―12歳の部以下の男女各３部門は各１人が日本代表に選抜され、４月１日終了の西日本決勝大会で決まった日本代表とともに、ＩＭＧＡ世界ジュニア（７月12～15日、米サンディエゴ）に出場する。また、15－17歳の部男子1位に男子ツアー「ＨＥＩＷＡ　ＰＧＭ　ＣＨＡＭＰＩＯＮＳＨＩＰ」出場権、13－14歳の部男子1位に同大会の出場を争う「ＨＥＩＷＡ　ＰＧＭ　Ｃｈａｌｌｅｎｇｅ」出場権がそれぞれ与えられる。

●東日本決勝　初日ハイライト１　◇15―17歳の部男子◇茨城・美浦ＧＣ（6550ヤード、パー72）
中島啓太（東京・代々木高２年）が圧巻のゴルフを見せた。2番パー５で40ヤードの第３打を「ＯＫにつけた」とバーディーが先行してから、17番で２メートルを決め、18番パー５は2オンの上がり連続バーディーなど６バーディーを奪い、16番で40センチを外したボギー１つで５アンダー67をマーク。２位に７打差の首位に立った。「スコアは満足です。ショットが良かった。欲をかけば、もう２つ、３つ行けたと思う」と、本人も納得の出来栄えだった。中学3年から素質を見込まれて日本ゴルフ協会のナショナルチームに入っている力を見せた。4月4日の東北予選をトップ通過した後、１週間のゴルフ部合宿があり、通信制でなかなか会えない仲間と過ごしてきたのがリフレッシュになったよう。「今日はずっとリラックスできた。合宿が楽しかった」という。世界ジュニア日本代表が近づいて「できれば明日もアンダーで回って決めたい。たぶん、ショットは今日の状態が続いていると思います」と、自信をみせていた。

●東日本決勝　初日ハイライト２　◇15―17歳の部女子◇茨城・美浦ＧＣ（6328ヤード、パー72）

岩井千怜（ちさと、埼玉・川島中3年）が1アンダー71の好スコアで首位に立った。前半インを２オーバーで折り返したが「13番の左ＯＢだけであとはいい感じだった」という。後半に入ってその感触通り、2番パー５で４メートルを決めた後、6番で3メートル、8番で2メートル弱の3つのバーディーを奪ってアンダーパーでフィニッシュした。姉・明愛（あきえ）と双子姉妹で知られる。「今日は練習場ではドライバーが右に行っていたのに本番になったらまっすぐ行った。自信がつきました」と、本人もびっくりの好調さだった。「いつも練習している埼玉の石坂ＧＣとグリーンの速さとか感じが似ていて、速いグリーンは好きなんです」と、プロのトーナメント並みの速さに仕上げてあるコースも苦にならなかった。「姉と一緒に世界に行きたい」が目標。79で8位発進の姉・明愛は「（妹は）どうしたんだろ。私は波があるけど妹は最近ずっといいんです。私も頑張らないと」と発奮していた。

●東日本決勝　初日ハイライト３

◇13―14歳、15―17歳の部女子◇茨城・美浦ＧＣ（いずれも6328ヤード、パー72）

「姉妹日本代表」へ、吉田姉妹が前進した。13－14歳の部で吉田鈴（りん、千葉・市川第三中2年）が５オーバー77で、昨年の世界ジュニア日本代表の花田華梨（かりん、栃木・宝木中２年）とともに首位に立った。「前半40をたたいてしまったので、後半（37）はメチャ頑張りました」と、笑顔を見せた。バーディーこそなかったが、「得意のアプローチがよくて、ショットがばらついていたけど、１パットのパーが６回ぐらいあった」と粘りのゴルフをみせた。日本ゴルフ協会のナショナルチームに所属する姉・優利（千葉・麗澤高２年）を尊敬し「一緒に世界に行きたい」と予選から挑戦してきた。その姉は、15－17歳の部女子で３打差３位につけ「妹が首位なんてびっくりですよ」とこちらも笑顔。小６の2012年以来５年ぶりの世界ジュニアを目指しているが、妹の奮闘で「姉妹で日本代表」が近づいてきた。「ドキドキしますけど私が頑張るしかないです。今日やったミスを繰り返さないようにしたい」（鈴）「ピンの位置が難しくなると思うので、攻めと守りをはっきりさせてやりたい」（優利）と、最終日を思い描いていた。

写真：
左上＝15-17歳男子 中島啓太、右上＝15-17歳女子 岩井千怜
左下＝15-17歳女子 吉田優利、右下＝13-14歳女子 吉田　鈴
©IJGA2017